

桃、梨の栽培技術習得へ ～特産品めざし現地検討会～

松島町では、8月上旬から9月中旬にかけて、町内根廻(ねまわり)地区で200本の桃と30本の梨が初の収穫期を迎えた。この桃と梨は遊休農地解消対策の一環として町内農家、町、JAなどで構成された「松島町高齢者活躍の場創生協議会」が昨年3月下旬に植栽したものだ。

収穫期を迎えるにあたり、昨年6月に発足したJA仙台松島地区果樹部会は、7月20日に隣町の利府町の梨農家を講師に招き、現地検討会を開催した。

この現地検討会は各農家の技術習得を目的としており、会員同士の生育状況を確認しあい、それぞれに合った栽培方法を講師から学べる重要な機会となっている。

現在の会員数は13人で、桃や梨のほか最近人気の高い品種のぶどうも取り入れ、松島町の特産品にしようと会員同士の技術研鑽に励んでいる。

町では約60年前に桃が試験栽培された例があるが、病虫害などが原因で今ではほとんど残っていない。しかし、近年の地球温暖化による気温の上昇で町内でも栽培可能ではないかとの声もあり、「名勝松島」産の果樹を特産にして、将来的には観光農園の実現も視野に入れ、日々の管理に取り組んでいる。



【記事提供：松島町農業委員会】